

施策	2104 公共交通体系の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	余地有		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民全般							
施策が目指す姿	高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指し、コミュニティバス（ふれあいバス）・デマンドタクシー（蔵タク）など便利な公共交通機関の充実等を図る。							
成果指標	ふれあいバス年間利用者数...5年間（平成25年度～平成29年度）で295,000人（現状値194,732人） 蔵タク年間利用者数...5年間（平成25年度～平成29年度）で62,000人（現状値56,034人）							
目 標 達 成 状 況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度		
	成果指標1 [人]	予定	204,000.00	219,000.00	237,000.00	273,000.00	295,000.00	
		実績	194,732.00	210,127.00	218,791.00	222,551.00		
	成果指標2 [人]	予定	49,000.00	57,500.00	59,000.00	60,500.00	62,000.00	
		実績	56,034.00	58,029.00	59,609.00	61,098.00		
		単位コスト	4.92	5.54	5.77	6.06		
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
実績								
	単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	273,988	292,776	369,507	382,628			
	実績	275,669	321,478	343,708	370,267			
内 部 評 価	貢献度	上位施策の成果指標「公共交通の充実に対する市民満足度」を42.6%から60%に向上させるためには、利便性の向上が必要であり、本単位施策の目標達成による貢献度は高い。						
	達成状況	蔵タクについては、目標を達成したが、ふれあいバスについては、要望等を踏まえ、路線・ダイヤの見直し等の利便性向上策を実施したが、目標は未達となった。						
	課題	ふれあいバスの利用者数は、増加傾向にあるがまだまだ少ない状況であることから、積極的なPRを行うとともに、利便性の向上等、見直しを行う必要がある。						
	取組方針	実態調査や要望等により利用ニーズを把握し、需要の多いと見込まれる運行ルートへの検討や、わかりやすい停留所や時刻表の表示などPRに努め、利用者数の増加を図る。						
外 部 評 価	ふれあいバスのPRの仕方をもっと工夫すべきである。特に高齢者には路線がわかりにくく、小さな文字も見づらいので、工夫が必要である。乗車人数が少ない時間帯などは運行本数を見直すべきである。バスの行先はアンケートをとり、その結果を踏まえて検討すべきである。 蔵タクは年間利用者数が堅調に伸びており、県内のデマンドタクシーの中で最多となったことは大いに評価できる。今後は予約キャンセルなどの課題解決に向けて、利用方法の周知を徹底するなど積極的な取り組みに期待したい。							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	116801	蔵タク運行事業費				81,961	100	
	116701	ふれあいバス運行事業費				288,306	80	
	756601	地域公共交通網形成計画策定事業費					0	

平成28年度

単位 施策評価表 補表

施策	2104 公共交通体系の充実		
区分	妥当性	妥当	高齢者や学生など、自家用車等を運転できない方の移動手段の確保及び公共交通通箔地域の解消を図るため、コミュニティバス、デマンドタクシーが必要である。
	コスト削減の余地	無	上記目的を達成するためには、現在運航している全10路線のふれあいバス及び蔵タクの運行が必要であり、コスト削減は困難である。
	受益者負担	余地有	現在のふれあいバスの料金設定方法については、利用者にとってわかりにくい面もあり、検討する余地がある。
	上位貢献度	有効	公共交通体系の充実を図るためには、鉄道だけでは不十分であり、それを補完するふれあいバス及び蔵タクの運行は、非常に有効である。
	類似事業の有無	有	現在、市内を運行する乗合の公共交通機関は、鉄道と私立高校の利用が主となる民間バス1路線のみである。
	成果向上の余地	有	ふれあいバスについては、路線・ダイヤ等の見直しや各種利便性向上策を実施することにより、利用者数の増加を図ることが出来る。
内部評価	貢献度		
	達成状況		
	課題		
	取組方針		

事 様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 2 8 年度

会計	一般	款項目	020115	予算事業コード	116701	事業区分	02	行政的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策	
事業名	ふれあいバス運行事業費										主	2104	暮らしやすい都市の創出	公共交通体系の充実	
担当部課 係・担当チーム名	生活環境部 交通防犯課 公共交通対策係						担当者	飯塚 亨		従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等	栃木市コミュニティバス運行補助金交付要綱・道路運送法				事業期間	H 2 3 ~ H 3 3 年度		全体事業費 (人件費除)	1,554,201	千円		
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どうい方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 地域公共交通総合連携計画に基づき、高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指して、ふれあいバスを運行する。 【主要事業】						達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) ・高齢者等の交通弱者における日常生活の足として定着させる。 ・利用促進策を検討し、利用者数を増加させる。							
	単位：千円、人						成果 施策目標	ふれあいバス年間利用者数...5年間(平成25年度～平成29年度)で295,000人 (現状値194,732人) 蔵タク年間利用者数...5年間(平成25年度～平成29年度)で62,000人(現状値56,034人)							

単位：千円、人			平成27年度決算額	平成28年度決算見込	平成 2 7 年度			平成 2 8 年度								
事業費・指標の推移	事業費	国庫支出金	0	0	事業の内容 その成果	【事業の内容】			【事業の内容】							
		県支出金	1,332	1,898		<ul style="list-style-type: none"> 出前講座等による利用促進のためのPR ふれあいバスの本格運行(10路線) 運行経費に対する補助 運行実績の評価・検証 運行内容の検討・見直し 			<ul style="list-style-type: none"> 出前講座等による利用促進のためのPR ふれあいバスの本格運行 運行経費に対する補助 運行実績の評価・検証 運行内容の検討・見直し 							
		地方債	0	0		【成果】			【成果】							
		その他特財	0	0		<ul style="list-style-type: none"> 「とちぎメディカルセンターしもつが」への乗り入れを中心とする全路線を対象とした見直しの実施 年間利用者数 218,791人 			<ul style="list-style-type: none"> 「とちぎメディカルセンターしもつが」への2路線の追加乗入を中心とする全路線を対象とした見直しの実施 年間利用者数 222,551人 							
		一般財源	253,002	278,908		指標名	算出方法		単位	事業の事後評価	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地
		事業費 a	254,334	280,806		年間利用者数	毎日の利用者数を集計 H28目標値：273,000人		人							
		人件費 b	7,500	7,500					妥当							
減価償却費 c	0	0														
総事業費 a+b+c	261,834	288,306														
結果指標 1	218,791.00	222,551.00														
結果指標 2																

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入)											
	・運行ルートやダイヤの見直し等の利用促進策を検討し、利用者増による運賃収入を増加させることにより、安定的なふれあいバスの運行を目指す。											

事後評価備考												
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 28 年度

会計	一般	款項目	020115	予算事業コード	116801	事業区分	02	行政的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策		
事業名	蔵タク運行事業費										主	2104	暮らしやすい都市の創出		公共交通体系の充実	
担当部課 係・担当チーム名	生活環境部 交通防犯課 公共交通対策係						担当者	飯塚 亨		従						
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等		栃木市デマンドタクシー運行補助金交付要綱・道路運送法				事業期間	H23 ~ H33 年度		全体事業費 (人件費除)	461,287		千円	
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どうの方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 地域公共交通総合連携計画に基づき、高齢者等の交通弱者の日常生活における移動手段の確保及び公共交通空白地域の解消を目指して、蔵タクを運行する。 【主要事業】							達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) ・高齢者等の交通弱者における日常生活の足として定着させる。 ・本格運行により更なる利用促進策を検討し、利用者数を増加させる。							
								成果目標	ふれあいバス年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で295,000人 (現状値194,732人) 蔵タク年間利用者数...5年間(平成25年度~平成29年度)で62,000人(現状値56,034人)							

単位：千円、人		平成27年度決算額	平成28年度決算見込	平成27年度		平成28年度							
事業費・指標の推移	国庫支出金		0		事業の内容 その成果	【事業の内容】			【事業の内容】				
	県支出金	3,726	4,517	<ul style="list-style-type: none"> 出前講座等による利用促進のためのPR 利用者登録の促進 蔵タクの運行 運行経費に対する補助 運行実績の評価・検証 運行内容の検討・見直し 			<ul style="list-style-type: none"> 出前講座等による利用促進のためのPR 利用者登録の促進 蔵タクの運行 運行経費に対する補助 運行実績の評価・検証 運行内容の検討・見直し 蔵タク運行システムの更新 						
	地方債	0	0	【成果】			【成果】						
	その他特財	22,707	19,880	<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 59,609人 利用登録者数 17,069人 			<ul style="list-style-type: none"> 年間利用者数 61,098人 利用登録者数 18,204人 						
	一般財源	47,941	50,064	指標名			算出方法			単位			
	事業費 a	74,374	74,461	1日当り利用者数		年間利用者数 ÷ 運行日数 H28目標値：247人			人/日				
	人件費 b	7,500	7,500	利用登録者数		利用登録者数 H28目標値：17,000人			人				
減価償却費 c	0	0	事業の事後評価			妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地		
総事業費 a+b+c	81,874	81,961	妥当			無			余地有				
結果指標 1	246.00	251.40	有効			無			無				
結果指標 2	17,069.00	18,204.00	有			有			有				

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入)					
	・利用促進のためのPRや利便性の向上を図り、利用者増による運賃収入を増加させることにより、安定的な蔵タクの運行を目指す。					

事後評価備考						
--------	--	--	--	--	--	--